

AIによる50歳からの超早期認知症リスク診断と予防策の効果



池上 匡

画像診断科 診療科教授

認知症は我が国のみならず世界中の医療・社会上の深刻な問題であり、今後さらに重要となることは論を待たない。なかんずく認知症の大部分を占めるアルツハイマー病の治療が最も注目されてきた。レカネマブなどの高額で副作用もある抗アミロイド抗体薬は、脳内のアミロイド沈着を検出限界以下に低下させたにも関わらず症状が進行することが明らかとなった。EBMのバイブルである最新のコクランレビューは『効果はないか、極めて少ない』と断定した。これは軽度認知障害の段階でも治療開始が遅すぎるためなのか、あるいはそもそもアミロイド沈着は神経損傷の原因ではなく結果のひとつと考えると、アミロイド真理教の教義を変えるべきなのかもしれない。一方で最近のAIの進歩は目覚ましく、MRI画像とAIを使って脳の各領域の委縮度を測定し、50代から認知症リスクを推測できるようになってきた。本講演では、これまで行ってきた認知機能が正常に近い方々のAIによる認知症リスクの測定と、その結果に基づく高リスク患者への副作用のない脳萎縮予防策によるリスク低減データを紹介したい。これらの結果は、認知症の診断・治療・関連研究を革新する可能性を秘めている。

経歴

1981年 横浜市立大学医学部 卒業

1984年-1986年 米国インディアナ大学 医学部 実験癌研究所 助教授

1987年 横浜市立大学大学院医学研究科修了

1987年-1989年 横浜市立大学 医学部 放射線医学講座 助手

1989年-1997年 横浜南共済病院 放射線科 部長

1997年-1999年 横浜市立大学 医学部 放射線科 講師

1999年-2010年 米国製薬企業3社に勤務

2010年-2017年 横浜南共済病院 放射線科 部長

2017年-現在 神奈川歯科大学 画像診断科 教授

専門医・資格

医学博士

日本医学放射線学会専門医、第1種放射線取扱主任者、日本医師会認定産業医